

学校だより 12月号

令和3年12月1日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

TEL 048 (548) 1004
FAX 048 (547) 1467
URL
<http://koya-e-konosu.edumap.jp/>
e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



生涯学習ノススメ ～昔話「桃太郎」に隠された深い意味～

校長 池澤 道弘

早いもので今日からもう12月。寒さも一段と厳しくなり、本格的な冬がやってまいります。また、年末が近くなってくると世間も慌ただしくなり、交通事故が起こりやすくなります。2学期もあと3週間ほどで終業式を迎えますが、子どもたちが健康で事故なく毎日を過ごすことができるよう、ご家庭でも折に触れてお声がけをお願いします。

さて、感染症拡大防止に係る長い自粛生活で、自宅で「YouTube」を見る機会が増えたのですが、ある日「桃太郎と十二支の関係」について紹介した動画を見ていて、まさに「目から鱗が落ちる」思いになりました。皆さんも「桃太郎」のお話はよくご存じだと思いますが、「そもそもなぜ『桃』太郎なのだろう？」（日本古来の果物は、「柿」「栗」「梨」などいろいろあるのに…）「お供はなぜ、『サル』『キジ』『イヌ』なのだろう？」（どうせなら「熊」「鷲」「狼」など、もっと強そうな動物にすればいいのに…）など、素朴な疑問を感じたことはないでしょうか。「桃太郎」は、室町時代から江戸時代にかけて作られたお話と言われていますが、先の疑問には、かつての日本で用いられていた十二支を用いた方位と陰陽五行説の考えが関係していると、その動画では紹介されていました。

今と違って科学が発展していなかった昔は、悪いことが起こらないよう「占い」や「方角」をととても気にしていました。（有名なものには平安時代の「方違え」などがあります）特に、北東の方角は邪悪な鬼が出入りする「鬼門」として忌み嫌われていたようです。この北東を指す十二支を見てみると「丑」と「寅」があてはまります。だから鬼は、丑の角と寅の毛皮の腰巻をしているのだと言われています。

一方「鬼門」に対抗する「裏鬼門」にあたる十二支は、時計回りに「申」「酉」「戌」です。このことから桃太郎の家来は「サル」「キジ」「イヌ」になったのだそうです。でも『サル』『イヌ』は分かったけど、なぜ『酉』は『キジ』なのか」という疑問が湧きます。これは、キジは日本を代表する野鳥であり、国鳥であるからと考えられています。また、「サル」は知恵、「キジ」は勇気、「イヌ」は忠誠心を表しているとも言われています。また、当時日本には、中国から伝わった自然界のものを「木」「火」「土」「金」「水」に分ける五行説という考え方がありました。この考えに基づくと、裏鬼門にあたる果物は「桃」になります。更に桃は、不老長寿をもたらす聖なる果物として扱われていたこともあり、「桃太郎」になったと考えられています。つまり、「桃太郎」のお話には、「不吉なものを追い払い、末永く穏やかに暮らしていきたい」という、当時の人々の思いが隠されていたのです。

今回、「桃太郎と十二支の関係」について学び、いくつになっても学習していく姿勢をもち続けることはとても大事なことで再認識いたしました。NHKの番組ではありませんが、「ボーっと生きてるんじゃないよ！」と叱られないよう、「私たち大人も日々見識を深めていかなければ」と感じた次第です。子どもたちに負けないように…。

